



高小だより

津市立高茶屋小学校
平成29(2017)年5月
文責：校長 伊庭 正彦

学調(小6)とスタディチェック(小5、小4)が実施されました！

先月18日に高茶屋小学校でも6年生を対象にして、全国学力・学習状況調査が実施されました。マスコミには「学力テスト」と呼ばれることが多いですが、本当は「学力テスト」ではなく「学力調査」です。この調査は平成19年度から全国的な児童生徒(小6と中3)の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を見つけ、その改善を図るために行われています。



全国学力・学習状況調査 6年生対象

教科に関する調査 今年度は国語、算数

- ・主として「知識」に関する問題 国語A、算数A
- ・主として「活用」に関する問題 国語B、算数B

生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

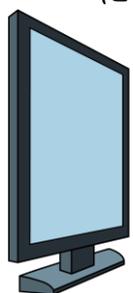
- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

昨年度の調査において三重県では、調査開始以来初めて、「小学校国語B」、「小学校算数A」で全国の平均正答率を上回りましたが、本校は残念ながら全国平均には届いておりません。

また、三重県では平成26年度から、「みえスタディ・チェック」を実施し、学校での授業改善や指導の充実に活用しています。今年度は学調と同じ日に5年生と4年生を対象に、国語、算数、理科の3教科で「みえスタディチェック」が行われました。子どもたちは、いつもとは少し違う問題に苦戦しながらも、頑張っ

「チェックシート」の取組ありがとうございました。

連休明けに「チェックシート」(黄色い用紙)を取り組んでいただき、ありがとうございました。これは、三重県がPTAと連携し行っている「みえの学力向上県民運動」の一環として三重県一斉に取り組んでいるものです。これは子どもたちが、本



に親しんだり、運動をしたり、規則正しい生活習慣を身につけることを目的にしています。

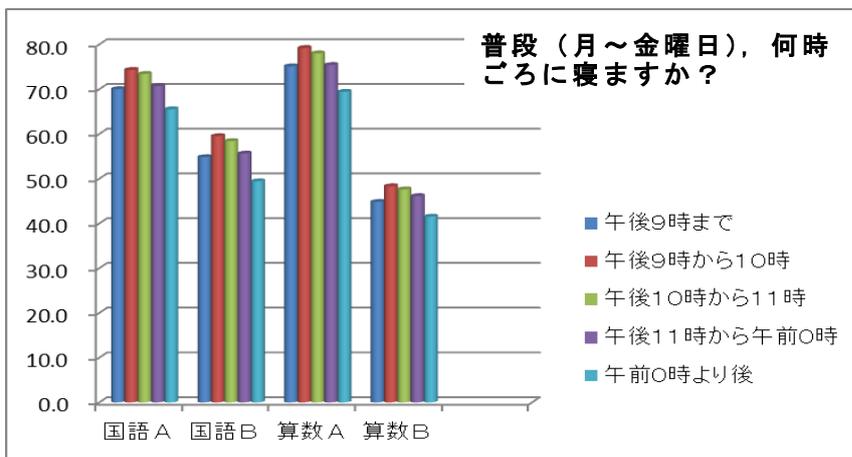
「早寝、早起き、朝ごはん」といった生活習慣や読書習慣が身に付いている児童は学力が高いという研究が報告されています。全国学調の結果分析からも生活習慣や読書習慣は学力との相関関係がみられます。



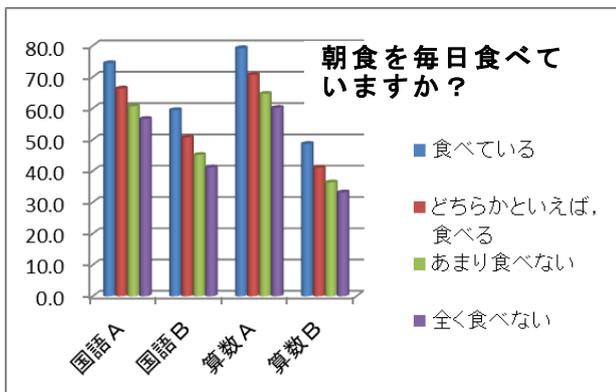
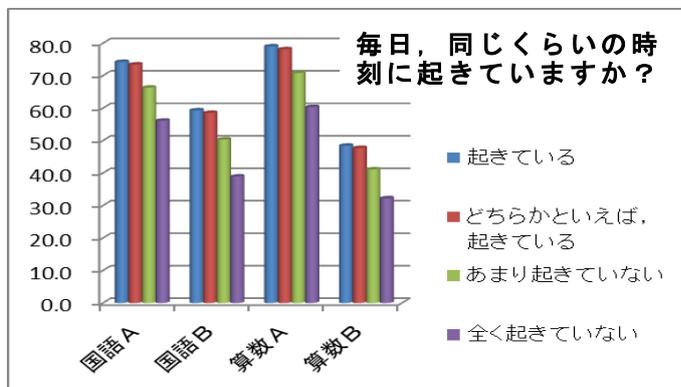
昨年度の全国学力・学習状況調査の結果から

全国の6年生の調査結果（昨年度）からグラフをつくってみました。各教科の平均正答率（％）と生活習慣などとの相関関係を示したものです。

最初のグラフは、6年生の平日に寝る時刻と学力との関係を示したものです。最も学力が高いのは、午後9時から10時に寝る子どもたちです。逆に午前0時より遅く寝る子は学力が最も低くなっています。遅くまで起きていても勉強しているわけではなさそうで、早く寝る方がよい結果が出ています。



次のグラフは、毎日同じくらいの時刻に起きることと学力との関係を示したものです。規則正しい生活をして、毎日決まった時刻に起きている子どもほど学力が高くなっているという結果が表れています。



左のグラフは、朝食を毎日食べることと学力との関係です。きちんと朝食を食べる子どもの方が、明らかに学力が高くなっています。朝、お腹がすいた状態では学校へ来ても頭が十分に働かないのではないのでしょうか。

以上のように、全国学調の結果からも、「早寝、早起き、朝ごはん」と学力との相関関係ははっきりと示されています。

最後のグラフは、読書が好きかどうかと学力との関係です。やはり読書が好きで読書習慣がある子どもの方が学力は高くなります。特に国語ではその傾向は大きくなっています。

ご家庭でも「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣づくりをよろ



しくお願いします。学校でも家庭と連携しながら読書好きな子どもを育てるよう取り組んでいきたいと思ひます。